



南林間小だより

大和市南林間9-3-2
☎ 275-3141



2月号

1月24日(水)、今年度3回目(地震による火災)となる避難訓練を行いました。

(小中合同引き渡し訓練は回数に入れていません。)3回の訓練いずれも「自分の命は自分で守る」を合言葉にして取り組みました。1回目(地震による火災)と2回目(火災)は先生が「おさない・かけない・しゃべらない・もどらない」の指示や放送の指示を子どもたちに伝え、避難経路などを確認ながら校庭に避難をしました。今回は休み時間、子どもたちには訓練のことを伝えずに実施しました。そのため、子どもたちがどのように行動するのか様子を見ていました。サイレンが鳴ると、子どもたちは放送に耳を傾けながら、その場にしゃがんだり、机の中にもぐったりしていました。その後、静かに、そして慌てることもなく校庭に避難していました。

校庭で子どもたちに話したことは、東日本大震災が起きた時、住んでいる地区が津波で壊滅状態になったにも関わらず、児童生徒全員が無事に避難できた「釜石の奇跡」と呼ばれる出来事を話しました。その中で特に児童生徒が心がけていたことが3つあったことを伝えました。

- ① 想定にとらわれない。
- ② 状況下において最善をつくす
- ③ 率先避難者になる

地震はいつ起こってもおかしくありません。そのような時に、冷静に判断して行動することはとても大切です。東日本大震災では、一度避難場所に行ったにもかかわらず、寒いから自宅に上着を取りに行き、津波に巻き込まれた事例もあります。ご家庭におきましても、地震に限らず災害が発生した場合、3つの心構えや、どこに、どのように避難するかなど確認しておかれるとよいと思います。また、学校より4月に配付いたしました「震度5弱以上の地震発生時における対応」等、再度ご確認くださいようお願いします。

(校長 大谷 幸司)



サクサクと霜柱を踏みしめる音を楽しみながらも、やはり厳しい寒さにはかなわないと思う今日の頃です。

校内では外の寒さとは違って、学習発表会に向けた準備に熱がこもってきました。体育館からは気持ちを1つに合わせ、セリフや歌声が聴こえてきます。また、総合学習で学んだ内容を発表するためにグループの友達と相談しあう姿があります。どれもコロナ禍ではかなわなかった活動です。

集団で学ぶ良さは、自分の考えを伝えあい、折り合いをつけ調整していく中で、他者の考えに触れたり、新しい考えを見出したりすることにあると思います。学習発表会を経験し、子どもたちの視野が広がっていくことを願っています。授業参観当日は子どもたちの頑張りをぜひご覧いただければと思います。

(教頭 壺井 里英)